

飯島賢二の『恐縮ですが・・・一言コラム』

第 50 回 国の将来～これでいいのか、「日本の姿」

イラク戦争を始めたのは正しい選択だったのか？大統領選挙を^{まぢか}間近に控えたアメリカで、半数以上の国民が、その正当性を否定した。アメリカの最も従順な同盟国の我国は、歴史的決断までして自衛隊を派兵した。公務員や民間人の貴重な命の犠牲の上に、かつて経験したこともない、過酷な任務を自衛隊員に強いながら、それでもイラク戦争は終結を見ない。イラク戦争を始めたのは正しい選択だったのか？むしろ我国こそ、全国民に問い質すべきだ。

アメリカの考える「イラクの民主化」とは何か？超偏見的持論だが、恐らくラムズフェルトやウルトラコンサーヴァティヴの連中の目には、「日本の姿」が映っていたに違いない。アメリカの意のままになり、プライドとアイデンティティを有しない、金儲け担当部門。国防と教育をコントロールすれば、絶好例としての「日本」がある。中近東、アラブ地域にもう一つの「日本」を...そう考えるのは、伝統的アメリカ帝国主義であろう。

我国政治のキーマン二人、小泉首相も小沢一郎氏も、よく見れば、実にアメリカ至上主義者である。とにかくアメリカについていけば、我国は安泰、そうだった「時」もあった事は間違いない。しかしこれからは、少し情勢が違うかもしれない。

まず、経済パートナーの主軸が日本から中国に移ったという、アメリカ自体の政策転換がある。その中国がパートナーでいる限り、韓国を見捨てるに、そう多くの時間をかけないだろう。アメリカにとって何もメリットのない、北朝鮮など、論外かもしれない。

ヨーロッパ連合（EU）の動きは、独自の大統領と外相を新設し、確固たる経済ブロック圏の確立にある。その主要貿易先は、北アメリカ経済圏と中国である。我国と同じ資源を有しない加工貿易中心のEUは、当然日本は眼中にない。アメリカ・EUの首脳会議で「米欧の対立は何もない」と声高に宣言したブッシュの顔を思い出して欲しい。

そして中国の将来の主要貿易国は、アメリカ、アジア、中近東、それにEUである。成田の10倍規模、5,000haの巨大空港を次々に開港し、アジアの主軸通貨を「円」から「元」にした後は、日本は全く相手にせず...というのが中華思想の国の遠大な構想である。

近い将来、世界地図が大幅に変わりつつある。本当にこれからの日本は、アメリカ一辺倒でいいのだろうか？かけがいのない「平和」と身勝手な利己思想の中、退廃的と思われるほどの経済的贅沢を、甘んじて享受し続けてきた日本人。今となっては、その代償も^{すこぶ}頗る大きい。これから国、我が日本国が歩むべき道を、正しく見極めなければならない。政治家も官僚・財界人も、それを支える我々一人一人の有権者が、今、真剣に決断しなければならない時である。これからの日本を担う、未来の子孫のために...！